

会議録

会議の名称	和泉市環境基本計画専門部会（令和元年度第2回）
開催日時	令和2年1月23日 13:55～15:45
開催場所	コミュニティセンター1階 大集会室
出席者	巖部会長 藤田委員 橋本（隆次）委員 河合委員 橋本（恵）委員 梁取委員 辻委員 稲井委員 （以上8名 順不同）
会議形態	公開
会議の議題	<p>■議事</p> <p>(1) 市民・事業者意識調査結果（速報）について</p> <p>(2) 第3次和泉市環境基本計画（素案）について</p> <p>(3) その他</p>
会議の要旨	<p>○第3次和泉市環境基本計画策定に係る市民・事業者意識調査結果（速報）について概要の説明、質疑、審議を行った。</p> <p>○上記計画の素案について概要の説明、質疑、審議を行った。</p>
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 要点記録
記録内容の確認方法	<input checked="" type="checkbox"/> 会議の議長の確認を得ている <input type="checkbox"/> 出席した構成員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他（ ）
議事要旨 【主な意見等】	<p>1. 議事</p> <p>(1) 市民・事業者意識調査結果（速報）について</p> <p>【事務局説明概要】</p> <p>○スケジュール</p> <p>意識調査結果の報告の前にスケジュールについて確認する。</p> <p>これまで、8月27日の専門部会、10月3日の環境審議会を経て、11月8日～30日に市民及び事業者の意識調査を行った。今回の意識調査結果の速報では、12月2日までに回収した回答を結果に反映している。また、11月末から12月初旬にかけ、庁内ヒアリングを実施し、現在の業務内容や現行計画において修正が必要な点を洗い出した。本日は意識調査結果の速報や庁内ヒアリング結果を踏まえて作成した素案の形式や内容等について、ご確認いただ</p>

	<p>くことを目的に開催している。本日は具体的な取組内容ではなく、施策の大きな体系やまとめかたについて審議いただきたいと考えている。</p> <p>今後、2月13日の環境審議会で、今回の専門部会の結果を踏まえた修正案をご審議いただきたいと考えている。</p> <p>令和2年4月～5月に再度庁内ヒアリングを行い、具体的な取組内容や目標値の設定を進めていく。庁内で再協議したのち、最終案について6月に専門部会、7月に環境審議会で審議いただく。その後、市議会での報告を経て10月～11月頃、パブリックコメントを実施し、最終案に反映する。</p> <p>庁内での審議後、令和3年1月の専門部会での審議、2月の審議会での答申を経て、3月末に計画を策定予定である。</p> <p>○市民意識調査結果（速報）</p> <p>アンケートの目的は、一つ目がこれまでの環境政策の効果を検証すること、二つ目が今後の環境政策の方向性、重要分野、実行手段を検討することである。対象者は18歳以上の市民2,000名としている。今回は12月2日返送分までを対象としているが、それ以降に返送されているものはこれまで40通しかないため、結果は今後もそれほど変わらないと考えられる。</p> <p>P.2～P.3で結果の概要を記載している。割愛しながらご説明する。</p> <p>性別は、男性が約4割、女性が約6割となっている。年齢については60歳以上の割合が半数を超え、前回よりも増加している。また、回答者の2/3が、20年以上和泉市に居住している。</p> <p>地域の環境についての満足度は全体的に向上しており、特に空気のきれいさや道路の安全性、ごみのポイ捨て等について改善している。一方で自動車や工場等の騒音については若干悪化している。</p> <p>環境問題への関心は、前回は大気汚染や水質汚濁、騒音等に対する関心が高かったが、今回は気候変動や地球温暖化に関する関心が高まっている。</p> <p>SDGsについては70%以上の方が知らないと答えており、内容まで知っている人は6.4%にとどまっている。</p> <p>自然とのふれあいは全体的に前回よりも減っており、特に自然を保全する活動への参加が少ない。</p>
--	---

	<p>生態系サービスについては、多くの人が食べ物や資材等の、生活に直結する供給機能を重要だと考えている。</p> <p>環境配慮行動は、ごみの分別やリサイクル、節約について意識が高まっている。一方でごみの減量への取組は前回よりも悪化している。また、雨水の使用や太陽熱温水器の使用、太陽光発電の使用など、お金がかかるものについては今後も実施しないという回答が大半を占める。</p> <p>環境に関する情報の入手先としては、多くが広報いずみや回覧板であり、SNS の活用はどの世代でも少ない。環境に関して必要な情報としては、自分の住んでいる地域に関する情報や、環境に優しい暮らし方についての情報を希望する割合が多い。</p> <p>市の将来の姿としては、自然災害に対応したまちや、緑や自然など自然にあふれたまちを望む割合が高い。</p> <p>○事業者意識調査結果（速報）</p> <p>アンケートの目的は、市民意識調査と同様である。</p> <p>アンケートの配布数は 200 社で、業種の内訳は第一次産業が約 10 社、第二次産業が約 40 社、第三次産業が約 150 社となっている。</p> <p>環境関連部署を設置していない事業所は約 8 割あり、前回よりも設置していない事業所が増加している。</p> <p>環境配慮経営について、環境保全については多くの事業所が取り組む一方で、SDGs や脱炭素について取り組む事業所は少ない。</p> <p>環境に関する重要分野としては、省エネ対策や廃棄物の減量化、環境に配慮した製品の製造販売等が挙げられており、特に環境に配慮した製品に関する取組が前回より大きく増加している。</p> <p>環境施策への協力については、前向きな回答が多くなっている。協力の際して行政に望むこととしては、補助金の交付や事業発展に役立つ取組事例の紹介という回答が多い。</p> <p>環境を良くするための取組としては、廃棄物の分別・回収による再資源化や廃棄物の減量化、省エネについての取組は多い一方で、通勤における公共交通の利用促進や、二酸化炭素の排出係数を考慮した電力購入については今後も実行する見込みがないという回答が大半を占める。</p> <p>環境に関する認証については多くの事業者が積極的な取得を考えておらず、理由としてコストや人材不足を挙げる回答が多い。</p> <p>環境問題に取り組む際の問題としては、人材不足のほか、情報</p>
--	--

	<p>不足や勉強する機会の不足等の回答が挙げられている。</p> <p>環境に関する情報発信については約 6 割の事業者が行っていないが、行っている事業者については HP やパンフレットの活用が多くなっている。</p> <p>環境に関する情報取得の方法としては、広報いずみが最も多く、次いで市のホームページとなっている。</p> <p>【巖部会長】</p> <p>ありがとうございます。アンケートの目的として、これまでの環境施策の効果の検証があるとのことですが、今回の結果からどのように効果があったと見ているのでしょうか。</p> <p>【事務局】</p> <p>どの施策がどのような結果となったかを個別に把握するのは難しいですが、一つ目に、大気汚染や水質汚濁、騒音等、10 年前に課題としていた公害に対する市民の評価は上がってきており、施策の効果が出ているところかと思います。一方で、温暖化や気候変動等、新たな問題が出てきています。</p> <p>【巖部会長】</p> <p>台風等、気候変動について意識が高くなっているのは実際に市民に被害が出ているためで、施策の影響ではないようにも思います。</p> <p>他にご意見等はございますか。</p> <p>【委員】</p> <p>事業者アンケートに環境を良くするための取組についての設問がありますが、実際には具体的に何をすればいいかわからないことが多いです。また、何かインセンティブが無いと取り組みにくいです。</p> <p>ごみの分別については、廃プラが中国に輸出できなくなり、東南アジアに輸出するようになったものの、東南アジアでも受け取りを拒否されるようになったという大きな話があります。一方で、プラスチックごみを燃えるごみとして分別するかどうかという話もあります。</p>
--	--

	<p>【事務局】</p> <p>プラスチックごみについては、ペットボトル、ペットボトルのキャップ、プラスチックトレイ、卵カップについては分別回収してリサイクルしており、その他のプラスチックごみについては可燃ごみとして燃やしています。ただ燃やすだけではなく、発電や温水プールのための熱源として活用しています。海洋汚染等はなく、適切に処理しています。</p> <p>【委員】</p> <p>私もそのように認識しています。和泉市の焼却場は新しく、ダイオキシンも出ないと思います。私は和泉市の方法が正しいと思っていますが、一方で「なぜ和泉市はプラごみを可燃ごみと分別しないのか」という批判の声もあります。和泉市の方法をPRした方がいいのではないかと思います。</p> <p>省エネ機器の導入にはお金がかかりますが、一方で運転費用は低くなります。イニシャルコストを負担するような方策はないでしょうか。また、機器を後付けするケースもあります。今後の課題だと思います。</p> <p>【巖部会長】</p> <p>アンケートを今後の取組に反映させるという視点からお話しいただきました。他にはいかがでしょうか。</p> <p>【委員】</p> <p>市民アンケートの結果について、性別は合計回答数が 714 なのに、職業は 728 となっています。また、居住地については 719 となっています。なぜ合計の数値が異なるのでしょうか。</p> <p>【事務局】</p> <p>性別については、無回答も含めた結果として、合計が回答数と同じ 714 となっています。職業等については複数の項目が選択されているものもあるため、合計が 714 を超えています。</p> <p>【委員】</p> <p>今回、単数選択の設問に対して複数選択した回答を、そのまま結果に含めているのでしょうか。統計的な観点からは除かれるべ</p>
--	---

	<p>きです。例えば、単数選択の設問に対してすべての項目を選択する、といったケースも考えられます。</p> <p>【事務局】</p> <p>今回は単数選択の設問に対して複数選択した回答も結果に含めていますが、今後削除する方向で検討します。今回については極端に多数の項目を選択するというケースは見られませんでした。</p> <p>【委員】</p> <p>前回の結果について割合しかありませんが、回答数もある方が分かりやすいと思います。</p> <p>私は事業者に出向していたこともあります、その時々が景気が事業に関係してきます。それぞれのアンケートの時の景気指数のようなものを見て、その影響を考察に加えてはいかがでしょうか。</p> <p>【巖部会長】</p> <p>特に事業者については、景気の影響があると思います。前回のアンケート時の状況がわかるような資料を参考として入れていただければと思います。</p> <p>【委員】</p> <p>事業者アンケートについて、200 事業者に配布したとのことですが、まんべんなく同じ数を各業界に配布したのかと思ったら違うと伺いました。それぞれ何社ずつ配布したのでしょうか。</p> <p>【事務局】</p> <p>おおよそ、農林業等の第一次産業について 10 社、製造業や建設業を含む第二次産業について 40 社、水道事業や電気事業を含む、サービス関連の第三次産業について 150 社ほど配布しています。</p> <p>【委員】</p> <p>私事ですが、建設業に携わっています。建設業についての回答が 1 社しかないのは少ない印象ですが、母数が 1 社なら多いです。配布した母数がわからないのが、一市民として残念です。わかるようにしていただきたいです。</p>
--	---

	<p>市民アンケートの問 3 で大切にしたい自然について尋ねています。私は信太山の活動に携わっているのですが、回答が 17 しかないのは緑地面積の割合に比べて少なく、寂しいと思います。市に普及啓発活動をしていただき、増やすことはできないものかと思っています。</p> <p>【巖部会長】</p> <p>信太山保全是市でも力を入れているにも関わらず、少ない印象です。</p> <p>【委員】</p> <p>問 3 は複数回答についてどのように取り扱っているのでしょうか。</p> <p>【事務局】</p> <p>今回はそのまま結果に反映しています。今後、データの取り扱いを検討したいと思います。</p> <p>【事務局】</p> <p>今回は速報版としてこういった取り扱いとなっていますが、今後は設問通りの回答のみ反映する方針にしたいと思います。</p> <p>【巖部会長】</p> <p>この設問については単数回答というのは酷で、複数回答としても良かったかもしれません。</p> <p>【委員】</p> <p>市民向けアンケートの P. 10 で、ごみの分別の良さについて変わらないという回答が多くなっています。「プラ」と書いてあるごみが分別の 4 品目から外されることがあります。すなわち、爪楊枝が通らないごみは可燃ごみ、通るごみはプラごみとして分別する、ということとなります。それが影響しているのではないのでしょうか。</p> <p>【事務局】</p> <p>プラスチックについて、素材や汚れの状況によっては、プラス</p>
--	---

	<p>チックごみとして分別されてもリサイクルされずに可燃ごみとなるケースがあります。リサイクルについては 4 品目に分けてリサイクルのあり方を定着させています。</p> <p>【巖部会長】 その方法は前回の基本計画の時から同じなのでしょうか。</p> <p>【事務局】 そうです。</p> <p>【委員】 その点を明確にしていいただければと思います。</p> <p>【巖部会長】 プラスチックの分別の方法は自治体ごとに異なり、和泉市は理にかなった方法だと思います。和泉市のような方法は他に無いように思います。</p> <p>【事務局】 ダイオキシンが出ない施設で燃やして発電する和歌山市のようなケースと、炉の性能上ごみを細かく分別するケースと、ごみをできるだけ分別して資源にするケースと、3 つの方法があります。自治体によって異なります。</p> <p>【委員】 市民アンケートの回答者の年齢について、実際の和泉市の年齢構成に比べて高齢の方が多くなっています。また、男女比も偏りがあります。こういった結果に全体の傾向がひきずられていないのでしょうか。Weight Back 等の手法を用いて補正は予定されているのでしょうか。</p> <p>【事務局】 どういった影響があるか、今後検討したいと思います。</p> <p>【委員】 クロス集計の結果について、統計的な検定をして有意水準の確</p>
--	--

	<p>認等はされているのでしょうか。</p> <p>【事務局】</p> <p>現段階ではしていません。今後検討したいと思います。</p> <p>【委員】</p> <p>事業者アンケートの問 2 について、半数以上が「わからない」という回答になっています。その理由として、そもそも SDGs 等について知らないためなど、どういったことが推測されるでしょうか。アンケート結果のデータからは難しいかもしれませんが、ぜひ追加的な聞き取り等も含めて、可能であればご検討していただきたいと思います。</p> <p>【委員】</p> <p>事業者アンケートについて、従業員数は 10 名以上の会社がほとんどです。事業を始めてからの年数は 10 年以上が多くなっていますが、実際の回答者の内訳はどのようなのでしょうか。経営方針等については、社長等に回答してもらうのが良いのではないのでしょうか。現場では把握していないと思います。</p> <p>【巖部会長】</p> <p>SDGs については、知っているのは大手の事業者が多いかもしれません。個別にみれば傾向があるかもしれません。</p> <p>【事務局】</p> <p>今回の資料では社名がわかってしまうので割愛していますが、回答者の属性はお答えいただいております、社長や取締役の方からも回答いただいております。詳細については検討したいと思います。</p> <p>(2) 第 3 次和泉市環境基本計画（素案）について</p> <p>【事務局説明概要】</p> <p>○全体構成について</p> <p>今回の素案は第 5 章まで作成しており、6 章以降は次回以降の専門部会で提示する。今回、基礎データを参考資料として後半に掲載している。</p> <p>P. 1～P. 19 は本計画の位置づけや基礎資料、アンケート結果等を</p>
--	--

	<p>まとめている。</p> <p>○現行計画の課題</p> <p>P. 20～P. 29 では、現行計画に基づく施策の実施結果やアンケート結果から、評価と課題を記載している。前回に比べて総合的に考察できる形式としている。また、取組については現行計画に記載の内容から、動向や課題を考察できるものを抜粋して記載している。</p> <p>○和泉市の目指す姿</p> <p>P. 30 からは和泉市の目指す姿について記載している。P. 30 にある基本理念、基本方針については第一次計画の際に設定されたものだが、2050 年までの長期的な観点で設定されたものであるため、今回変更しない。</p> <p>P. 31 は基本目標についてであり、今回議論していただきたい点の一つ目である。第 2 次計画と異なり、気候変動や地域循環共生圏等の新しい内容を入れている。基本目標は前回と同じく 5 つだが、網掛け部分を今回変更している。例えば基本目標 2 について、「低炭素化」というワードを「脱炭素化」としている。また、大規模災害の発生も考慮し、「健康で安全な魅力ある住み続けたいまちをつくる」という目標を設定している。</p> <p>P. 32～P. 33 は代表指標と目標値を記載している。こちらも特にご審議いただきたい点の二つ目である。前回計画では 300 個を超える取組が記載されていたが、数が多すぎて進行管理が難しく、未実施のまま推移した項目もあった。また、環境を取り巻く状況を把握するために必要な情報として収集していた項目や、改善に向けた取組がされていない項目等が多々あった。そういった課題を踏まえ、今回は 5 つの基本目標の到達度を図るために、目標値として代表指標を設定し、目標値ではなく状況を把握する指標としてモニター指標を設定している。詳しい目標値については関係各課等との調整が必要であるため、次回の専門部会で具体的な目標を提示したいと考えている。</p> <p>P. 34～P. 35 は市民等・事業者・市の役割を記載しており、第二次計画から引き継いだ内容となっている。</p> <p>○望ましい環境像の実現に向けた取組</p>
--	--

	<p>P. 36 からは施策の体系について記載しており、今回議論していただきたい点の三つ目である。</p> <p>P. 36～P. 37 について、網掛け部分が前回からの修正点である。第二次計画では「施策の柱」という記述だったが、今回は「基礎施策」としているなど、標記の仕方を一部変更している。また、前回の計画では横開き A3 で施策全体を示していたが、項目が多くわかりづらかったため、見やすさのために今回は別添としている。前回の計画の取組については、庁内ヒアリングの結果を受けて統合や廃止しているものもある。</p> <p>P. 38 からはまだ参考程度の段階ではあるが、それぞれの目標について市民、事業者、和泉市の役割を記載している。市の取組について、詳しい内容についてはまだ関係各課にヒアリングをした内容ではないので、今後大きく変わりうる。</p> <p>P. 43、P. 47 は新規項目である。P. 45 は前回の「新エネルギー」という用語を「再生可能エネルギー」としている。</p> <p>下半分が空白のページがある。ここには、ヒアリング結果に基づき、それぞれ関係する取組をコラム的に掲載したい。</p> <p>○参考資料</p> <p>P. 68 からは参考資料を掲載している。データによって最新年度が平成 29 年度であったり平成 30 年度であったりするが、それぞれデータを更新している。</p> <p>また、今回はまだ用意できていないが、前回と同じように巻末に用語集を掲載したいと考えている。</p> <p>【巖部会長】</p> <p>お気づきの点やご意見等あればお願いします。</p> <p>【委員】</p> <p>P. 21 等のアンケート結果の記載について、「大変」や「多い」という記述がありますが、基準が無いと恣意的な判断になってしまいます。そのため基準を設けるか、「前回に比べて多い」と書いたり、数値をそのまま書いたりする方がより正確な情報をお伝えできると思います。</p> <p>P. 31 では「生きもの」、P. 37 では「いきもの」という記述があり、表記に揺れがあります。意味が異なるので、調整していただ</p>
--	---

	<p>きたいと思います。また、生物多様性は一種類の生き物がたくさんいても仕方ありません。「生きものいっぱい」という言葉は誤解を招くと思います。</p> <p>P. 33 のモニター指標に、生き物については出てきません。また、P. 37 の基本施策 3-1 に「生物多様性の確保」とありますが、対応する指標が見当たりません。基本施策とモニター指標の対応について、説明できるようにしていただいた方が良いでしょう。</p> <p>P. 31 の基本目標 5 について、「健康」については水洗化率、「安全」については災害への備え、「魅力あるまち」については住環境等が対応するのかと想像します。そうであるならば、取組方針に沿って指標を並べたほうが良いのではないのでしょうか。市民にとってわかりやすく、迷いがないようにしていただければと思います。</p> <p>【事務局】</p> <p>貴重なご意見ありがとうございます。生物多様性については、課内でも議論をしましたが、なかなか良い取組が無いという状況ですので、ぜひご意見をいただきたいと考えています。P. 32 に、モニター指標ではなく代表指標として、「希少種が 6 種類いる」という指標があります。これは信太山に希少種がいるということで、分かりやすい指標ではあります。しかし、和泉市全域での生物多様性については、他になかなか良いアイデアがありません。今後検討しなければならないと考えています。</p> <p>【委員】</p> <p>今から計画の骨子は変えられるのでしょうか。</p> <p>【事務局】</p> <p>まだ素案なので変えることは可能ですが、基本目標等については今から変えるのは難しいです。</p> <p>【委員】</p> <p>どのレベルまで変えられるかは、時間も関係してくると思いますが、生物多様性については他市の取組も参考になると思います。また、アンケートの意見も踏まえてはいかがでしょうか。例えば、外来種についてや、桜の木に毛虫がついている等の意見があれば</p>
--	---

	<p>反映するなど、和泉市らしさを出していただければと思います。 また、他市のデータをチェックし、和泉市が持っているデータで 載せられそうなものがあれば参考にしてはいかがかと思います。</p> <p>【巖部会長】</p> <p>その他の意見はいかがでしょうか。枠組みとしては前回は踏襲 しつつわかりやすく整理されているかと思います。</p> <p>【委員】</p> <p>7 月からレジ袋が有料化されますが、そういった計画策定までの 動向のフォローアップもお願いしたいと思います。また、正確な データソースではないですが、SDGs についての教育が小学校のカ リキュラムに盛り込まれることになるそうですので、環境教育の 中での SDGs の構想のようなことについても記載していただければ と思います。参考資料の範囲で良いかもしれませんが、そういつ た国の動向もフォローしていただきたいと思います。</p> <p>【事務局】</p> <p>和泉市では昨年 12 月 10 日付でいずみプラスチックごみゼロ宣 言をし、レジ袋やマイボトル、ポイ捨て等に関して市民向けに PR・ 広報もしています。可能な形で計画にも掲載したいと思います。</p> <p>【委員】</p> <p>和泉市では焼却炉の方式によって分別の方法を変えることはな いのでしょうか。</p> <p>【事務局】</p> <p>和泉市ではプラスチックを 4 品目に分別しています。同じく泉 北クリーンセンターにごみを運んでいる泉大津市では、全てのプ ラスチックを集めるなど、市ごとに分別方法は異なります。</p> <p>【委員】</p> <p>焼却炉には燃焼式や熔融炉など、様々な方式があると思います。 分別の方針は焼却炉の方式によって変わるのでしょうか。</p> <p>【事務局】</p>
--	---

	<p>そういうわけではありません。泉北クリーンセンターには 3 つの市がごみを入れています。和泉市はプラスチックの分別は 4 品目のみで、あとは焼却炉に入れています。泉大津市はすべてのプラスチックを分別し、焼却炉には入れていません。</p> <p>熔融炉は現在使っていません。泉北クリーンセンターにも熔融炉はありましたが、現在は休炉となっています。</p> <p>【委員】</p> <p>熔融炉にも良い所はあるのではないのでしょうか。</p> <p>【事務局】</p> <p>通常の燃焼炉だと 1 割程度が灰として残ってしまいます。残った灰は、臨海部の処分場などに埋めています。</p> <p>【事務局】</p> <p>熔融炉はコストが高くなります。また、常に稼働を続けなければいけないという難しさもあり、休炉しています。</p> <p>【委員】</p> <p>P.37 の基本目標に、スペースがあるのであれば、それぞれ SDGs の対応するゴールの番号を入れると、現代風になるのではないのでしょうか。</p> <p>【事務局】</p> <p>社会的にも SDGs については注目されており、可能であれば入れたいと考えていますが、各課との調整も必要となります。重点施策については各環境目標について横断的な取組を想定しているために SDGs と紐づけたいと考えていますが、基本目標についてもそれぞれ紐づけるのが今回の計画として適切かどうかは、各課との協議も含めて検討したいと思います。</p> <p>【委員】</p> <p>情報共有をさせていただきます。私に関わっている環境基本計画はどこも SDGs を紐づけしています。しかし、紐づけはなかなか難しいです。環境省によると SDGs の 17 のゴールのうち、13 が環境に関連しています。</p>
--	---

	<p>1つの施策に3つゴールを付けると、どの施策にも3つゴールを付けるという話になってしまったりします。また、SDGsのゴールは独立したものではありません。例えば食品ロスについては貧困や飢餓に関係しますが、堆肥化の技術が進展するとなれば、別の目標と関係してきます。</p> <p>ただし、例えば「作る責任、使う責任」は一人一人の日常生活での取組や、企業の作る責任をどう考えて行動するか等が分かりやすくなります。SDGsのゴールには付けやすいものと付けにくいものがあります。和泉市には海はありませんが、川を守ることで海を守ることができるのでプラスチックに気を付けるという観点から、海マークを付けられる可能性も出てきます。</p> <p>SDGsが5つのPであることや、社会・経済・環境のツリータイプになっていること、包括性・統合性などのSDGsのポイントについて説明しないと、バランス良くゴールを入れるとか、全色ゴールを入れるといった本末転倒な議論になりがちだと思います。</p> <p>【巖部会長】</p> <p>SDGsとは見せかけのアイコンが並んでいるだけのものではありません。また、SDGs推進都市等の取組をしている市だと、アイコンを何かとつけたがることもあります。</p> <p>新規項目についてはいかがでしょうか。</p> <p>【委員】</p> <p>P.43に大学との連携を推進するとあります。桃山学院大学のことかと思いますが、どのように連携するかがわかりづらいです。取組のなかで大学の取組を記載した方が良いのではないのでしょうか。</p> <p>【事務局】</p> <p>ご提案ありがとうございます。先ほどコラムを記載するとお話ししましたが、その際にご参考にしたいと思います。</p> <p>環境基本計画は環境分野での市の大きな今後の方針を示すものであり、個別具体的な取組をどこまで書くのが適切かは検討が必要だと思います。ただ、市民が見た時に概要が分かるようにすることは重要だと思うので、参考にさせていただきます。</p>
--	--

	<p>【巖部会長】</p> <p>桃山学院大学との連携について、お話はあるものの具体的なことはまだ決まっていないので、今後の可能性ということになります。</p> <p>【事務局】</p> <p>和泉市は桃山学院大学、大阪市立大学、大阪府立大学と包括連携をしています。桃山学院大学の環境サークルに以前、文化祭で使用するために市役所からパネルを貸し出したことがありました。そういった小さな事を続け、広げていくということはあると思います。</p> <p>【巖部会長】</p> <p>他にご意見が無いようですが、基本的に現在の方針で進めていけばよろしいでしょうか。</p> <p>それでは、事務局に進行をお返しします。</p> <p>【事務局】</p> <p>ありがとうございました。2月13日の審議会で修正した内容をご報告させていただきます。本日はお忙しい中ご足労いただき、ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
--	---